

令和6年度 施政方針

令和6年3月6日

吉野町長 中井 章太

【はじめに】

本日、ここに令和6年度の一般会計予算をはじめとする各議案のご審議をお願いするにあたり、町政運営に向けての所信の一端と重点施策の概要について申し上げ、議員各位並びに町民の皆様のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

まず冒頭に、私は、先般の吉野町長選挙におきまして、町民の皆様からのご信任を賜り、吉野町長として2期目の重責を担わせていただくことになりました。

引き続き、吉野町の持続的発展に向けた舵取り役を任せていただいた深い信頼と大きな期待に、責任の重大さを痛感するとともに、それに応えるべく誠心誠意、吉野町のために出来る限りの努力をしてまいり覚悟でございます。

所信の表明に先立ち、本年1月1日に最大震度7を記録する「令和6年能登半島地震」が発生し、北陸地方を中心に大きな被害をもたらしました。この度の地震により、お亡くなりになられた方のご冥福をお祈りいたしますとともに、被災された多くの皆様に心よりお見舞いを申し上げます。被災地域の日も早い復旧、復興を重ねてお祈り申し上げます。

(1期目の4年間で振り返って)

令和2年2月に吉野町長に就任させていただいてから4年間、町民の皆様、町議会の皆様と共に、『「ひと」がつながり「ひと」が輝き「ひと」が潤う 感動生まれる吉野町』を目指し、様々な事業を実施してまいりました。

就任直後から、我々が経験したことのないコロナ禍での町政運営となりましたが、新型コロナウイルスの接種率向上に向けた体制の確立や、抗原検査キットを活用したクラスター抑制等の早期発見・重症化予防対策など、町民や事業者の皆様へのさまざまな支援を行ってまいりました。

公共交通システムに関しては、利便性の高いシステムを確立するために、デマンドバスの運行を開始しました。町内に251箇所の乗降場所を設定し、可能な限り利用者のニーズに対応できる環境を整備しました。

教育関係では、令和4年4月に『ふるさと吉野への郷土愛、愛着心あふれるひとづくり』という基本理念をもとに小中一貫教育校「吉野さくら学園」を開校しました。また、小中学校の児童、生徒へ、一人一台の端末と、より高速でインターネットが利用できる環境を一体的に整備しました。

産業関係では、官民連携によりサテライトオフィスやコワーキングスペースの機能を有した「YOSHINO GATEWAY」が開設され、「地域の人」だけでなく「吉野町に訪れた人」が集える場所が整備され、移住や起業する動きも後押しすることができました。また、町民の幸せにつながるデジタル化を推進し、持続可能な地

域社会を築くため、「吉野町デジタル変革条例」を制定しました。

ごみ処理問題については、やまと広域環境衛生事務組合に可燃ごみの処理を委託することが決定しました。また、可燃ごみ以外についても、吉野町クリーンセンターとして、運営を町が引き受けることで、町民の皆様の安心につなげることができました。

これらの事業は、令和6年度におきましても更に進化させ、新たな挑戦へとつなげてまいりたいと考えています。

（国の状況）

政府が国会に提出した令和6年度一般会計予算（案）では、「幼児教育・保育の質の向上」や「観光や農林水産業の振興等の地方創生に資する取組の支援」、「国立公園における体験型アクティビティの造成や文化的建造物の利活用による集客・宿泊の高付加価値化などを推進」など当町の抱える課題に直結する取組に関係する施策を展開するとされています。

町政運営を行う上では、国の動向を注視し、中長期的な観点から健全な財政運営を戦略的に進めていくことが求められています。

（本町の財政状況）

本町の財政状況は、人口減少や少子高齢化の更なる進展により、厳しい状況が続いています。

歳入では、自主財源の根幹をなす町税については、引き続き厳しい状況が続くことが見込まれるとともに、一般会計の歳入の

約4割を占める地方交付税も約25億円規模で推移し、財源不足を財政調整基金等の繰入金で補っている状況です。

このような財政状況の中でも、様々な課題を解決していくために、私は、2期目にあたって「3つの重点プロジェクトと7つの目標」を推進してまいりたいと考えています。

【3つの最重要プロジェクト】

① 災害に強い「まち・ひとづくり」の推進

一つ目は『災害に強い「まち・ひとづくり」の推進』です。近年、日本ではさまざまな災害が多発しています。今後起こりうる災害に備えて、住民の皆様の防災意識や防災に関する知識を高めていただくために、コミュニティ防災の取組みを通して、多様な連携による災害対応力の向上を目指してまいります。

② 賑わい、民間活力導入による旧吉野小学校跡地利活用の推進

二つ目は『賑わい、民間活力導入による旧吉野小学校跡地利活用の推進』です。旧吉野小学校跡地の利活用については、令和4年3月に利活用方針を策定し、様々な検討を行ってきました。一日でも早く、民間活力導入による学校跡地の利活用を推進するため、町の拠点、賑わいの創出につながるような提案を求め公募を実施し、吉野町の未来のために、ともに盛り上げてもらえるような事業者に事業を実施していただきたいと考えています。

③町民の命を守り、次世代につながる新庁舎整備事業の推進

三つめは『町民の命を守り、次世代につながる新庁舎整備事業の推進』です。現在、『吉野町行政サービスの変革・新庁舎整備検討審議会』で様々な議論がなされており、令和6年度早々に答申される予定です。老朽化した役場本庁舎では災害時の業務継続に支障が生じ、町民の命を守る使命が果たせなくなる可能性があることから、答申後、早急に吉野町の未来につながる選択をし、新庁舎整備の推進につとめてまいります。

【7つの目標】

《目標1》「人を守る」いざという時のために

目標の一つ目は「人を守る」です。地域の防災力を高めるために、防災リーダーを育成し、防災教育を推進するとともに、地域住民が主体となる、参加型、体験型の防災活動を実施するために補助金を交付します。また、消防車両の更新等、非常備消防の強化を図ります。

《目標2》「生活を守る」住み続けたい吉野町を目指す

目標の二つ目は「生活を守る」です。住民の皆様の利便性を向上するため、マイナンバーカードを使ってコンビニ等で交付可能な証明書を拡大するとともに、奈良県が開発するウェブアプリを利用して、施設予約や様々な申請をオンラインで実施できる仕組みを構築します。

また、安全・安心な水道水を将来にわたって持続的に供給す

るために、県域水道の一体化を推進していきます。

空き家については、新しい空き家バンクの運営体制を構築するとともに、特定空家の解消についても進めてまいります。

更に、国や全国の首長等と連携し、町民ニーズを踏まえつつ、労働力不足の時代にあっても持続可能な地域公共交通が確保できるよう、交通事業者等と連携したデマンドバスの更なる進化、自治体ライドシェアなどの手段を検討するための調査・実証を行います。

《目標3》「高齢者を守る」認知症予防で健康寿命日本一を目指す

目標の三つめは「高齢者を守る」です。認知症予防を推進するとともに、認知症になっても安心して暮らすことができるまちづくりを目指します。多世代交流・介護予防拠点として老人福祉センター中荘温泉を活用した高齢者支援を実施します。

また、高齢者の外出のきっかけづくりや閉じこもり予防をおこなう為に、引き続きタクシーを利用した際の運賃の一部を補助します。

新型コロナワクチン接種についても、接種費用の一部を補助し接種しやすい環境を整えます。

《目標4》「観光と産業を守る」世界に選ばれる吉野ブランド

目標の四つ目は「観光と産業を守る」です。来年度は世界遺産登録20周年となります。「紀伊山地の霊場と参詣道」の中核資産として、世界遺産に登録されている吉野山を中心に、地域の価

値や魅力を国内外にアピールしていくため様々な事業を実施してまいります。

また、宮滝遺跡及び周辺環境の整備についても、企業版ふるさと納税等を活用し、引き続き実施してまいります。

津風呂湖周辺地域については、資源連携と人材創出の観点から地域おこし協力隊を採用し、地域の活性化と担い手育成を図ります。

深刻化する人手不足に対しては、地元事業者の労働者不足を解消するため、ハローワークと連携し県外での合同面接会を実施することで、移住施策との相乗効果を創出します。

吉野山のロープウェイに関しては、近鉄吉野駅とのアクセスの利便性を鑑み、その保存や代替手段等について、地元や関係企業等との連携を図りながら検討できるよう進めてまいります。

《目標5》「子どもを守る」未来の吉野町のために

五つ目の目標は「子どもを守る」です。現在のわかば、よしの両こども園を閉園し、令和6年度に、新たに「よしのこども園」を開園し、1園といたします。教育・保育環境改善のため、よしのこども園の大規模改修を行い、園児たちがのびのびと過ごせる環境を整えます。

また、通園バス、スクールバスを計画的に更新し、園児、児童、生徒が安全に通学できる環境を整えます。

《目標6》「吉野の環境を守る」自然との共生・共創

六つ目の目標は「吉野の環境を守る」です。吉野は森林や河川など、きれいな自然がいっぱいあります。この自然を守っていくため、森林環境学習講師を養成し、森林の果たす役割と価値、可能性を様々な人に伝えていきます。

鳥獣被害防止対策については、家内消費等の農業生産者向けに、新しく防護柵設置補助を設け、安心して耕作いただける環境を整えます。

《目標7》「町政改革の断行」足腰がより強い吉野町役場へ

七つ目の目標は「町政改革の断行」です。組織体制を見直し、職員が働きやすい環境を整えることで、横のつながりのある組織を構築し、5年先、10年先を見越した町政運営を職員とともに行っていきます。また、様々な事業を実施するにあたって、国や県の補助金だけでなく、ふるさと納税や企業版ふるさと納税を積極的にアピールし財源の確保をはかります。

【当初予算案の規模】

令和6年度 当初予算案の規模は、

一般会計 60億9,900万円、対前年度比 5億1,800万円、9.3%の増加となりました。

特別会計は26億9,200万円、対前年度比 1億110万円の減少となりました。

また、吉野町水道事業特別会計は

7億4,572万円、対前年度比 4,023万円の増加となっております。

提出致しました各会計予算案の概要並びに詳細につきましては、各担当課長等から説明することと致します。

【むすびに】

コロナ禍で培った一期4年の町政運営の経験と反省を踏まえ、美しいふるさと吉野を次世代に継承するために、リーダーとして必要な4つの力「強く思う力」「共感する力」「統率する力」「正しく決断する力」をもって、何事にも果敢に挑戦してまいります。

議員各位におかれましては、尚一層のご指導とご支援をお願い申し上げますとともに、提案致しました令和6年度当初予算案をはじめとする諸案件につきまして、ご審議の上、ご賛同を賜りますようお願い申し上げます、これから4年間の町政に臨む、私の施政方針と致します。